つんのーで！

佐世保市立中里中学校
学校だより　第１４号
文責　校長　川　口　貴　晴
令和７年６月２日（月）発行

【学校教育目標】　「自ら学び、考え、行動し、自ら『生きる力』を培う生徒の育成」
【めざす学校の姿】「生徒が通いたくなる学校」「保護者が子どもを通わせたくなる学校」
「地域が自慢したくなる学校」「教職員が勤めたくなる学校」
【めざす生徒の姿】「愛（合い）のある生徒」
～支え合い、学び合い、磨き合い、高め合い、励まし合い～
【めざす教師の姿】「時代・社会の要請を理解し、自らの教師力・人間力を高める教師」
【めざす授業の姿】「生徒の主体性・確かな学力・生きて働く力を育む授業」

「いのちの講話」を行いました

佐世保市では、6月を「いのちかがやく強調月間」として、生徒に「自他のいのち」を大切にする思いを育む取組を行っています。本校でも、「いのちかがやく週間」を設け、様々な取組を計画しています。詳しい内容については、文書を配付させていただいております。また、本校HPをご確認ください。

今回の「つんのーで！」では、5月30日（金）に本校で実施した校長講話「いのちを見つめる講話」（いのちの講話）についてお伝えします。

生徒は、いつも以上に神妙な顔で、しっかり耳を傾けていました（感想からもそう実感できました）。講話の最後に、生徒から自発的に拍手が起こりました。今回の話が生徒の心に少しでも届いたのではないかと思います。

以下に、今回の「いのちの講話」の内容を抜粋して紹介します。

※本来は、6月1日の「いのちを見つめる日」に講話を行うことになっていますが、本年度は日曜日となったため、5月30日に実施しました。

「一人一人が大切な存在！
誰もが大切にされる学校を創ろう！」

～校長講話の概要～

今回は、生徒に「いのちかがやくアンケート」と「言葉に関するアンケート」を実施し、その結果などを踏まえて、「いのち」について、生徒・教職員が共に考える内容にしました。

最初に、生徒に「中里中がどんな学校だったらよいか」「どんな学校にしたいか・できるか」を生徒に問いました。

次に、「いのちかがやくアンケート」から、肯定値が90％を超えた項目として、「自分にはよいところがある」「人の役に立つ人間になりたい」「人が困っているときは進んで助けている」「普段の生活の中で幸せな気持ちになる」「学校に行くのは楽しい」などを紹介しました。

そして、肯定値が53％で、とても気になる項目として、「学級は間違っても笑われない環境ですか」を紹介しました（この数値結果については教職員も大変重く受け止めています）生徒には、「安心して意見が言える、安心して間違うことができる学級・学校づくり」を今すぐにでも実現してほしい（実現しなけらばならない）と伝えました。

また、全国の「いじめ」の実態や態様（内容）についても説明し、一番多い態様は「冷やかし・からかい・悪口・脅し文句・嫌なこと言う」であることを話しました。このことを踏まえて、本校の実態を確認したいと思い実施した「言葉に関するアンケート」結果の内容を伝えました。（講話では、生徒アンケートで上位となった10個ほどを紹介しました）

①「言われて嬉しかった言葉」（ふわふわ言葉）

〇ありがとう
〇すごい・すごいね
〇頑張れ・頑張ってね
〇あいさつ（おはよう・こんにちは等）
〇いいね・いいよ
〇一緒に😊😊�ちしよう
〇優しいね
〇助かる・助かった
〇大丈夫？

②「言われて悲しかった言葉」(ちくちく言葉)

◆死ね
◆きもい・きもっ・気持ち悪い
◆うざい・うぜっ・うぜ～
◆だまれ
◆嫌なあだ名を言う
◆嫌い
◆ばか
◆外見・容姿のこと
◆殺す・殺すぞ・消えろ

③「学級・学校からなくしたい言葉」

◇死ね
◇暴言
◇きもい・きもっ・きしょっ
◇黙れ・うるさい
◇うぜい・うざっ・うぜ～
◇消えろ・いなくなれ
◇嫌い
◇人が嫌がる言葉
◇あだ名
◇からかい・いじり
◇殺す・殺すぞ

④「学級・学校で増やしたい言葉」

☆ありがとう
☆おはよう・こんにちは
☆すごい・すごいね
☆いいね・いいと思うよ
☆頑張れ・頑張ろう・頑張って
☆ほめ言葉
☆感謝する言葉
☆優しいね
☆楽しい
☆一緒に〇〇しよう
☆どういたしまして
☆大丈夫？
☆ごめんね

このような嬉しい言葉があふれている一方で、悲しい言葉も身近に飛び交っている現状があることを伝え、他人事と片付けず、自分事としてしっかり考えるように話しました。なぜなら、対岸の火事ではなくいつ自分に「悲しい言葉」が浴びせられるか分からないこと、だからこそ**明日と言わずに今すぐにでも「ちくちく言葉」を学校・学級から一掃し「ふわふわ言葉」が当たり前のように交わされ、誰もが大切にされ、安心して居ることができる学校・学級にしてほしいと伝えました。**また、「増やしたい言葉」に「あいさつ」があったことを大変嬉しく思い、わがふるさと中里・皆瀬地区が清々しく、笑顔あふれるあいさつがたくさん交わされる町になるように「中学生がそのフラッグシップ」になって先頭に立って実践してほしいと話しました。

そして、誰にでも個性があり、それぞれが何かしらの大切な役割と意味をもつ存在であること、そしてその個性は最大限に尊重されるのだという内容を記した「ひび割れ壺」という詩を紹介しました。(「ひび割れ壺」の話は、「ダメな自分なんかいない。どこかで誰かの役に立ったり、その人を幸せな思いにしたりすることもある」という話です。詳細はお子様からうかがってください。きっとお子様の心にしっかりと残っているはずです。)

最後に、「いのちを輝かす」とはどういうことか、また「輝かす」ために自分が実践していきたいことは何か、そして、今もこれからも、自分のいのち(相手のいのちも)を懸命に輝かせてほしいという話をして講話を終えました。

約40分間の講話の間、生徒は真剣に耳を傾けてくれていると実感でき、それだけでも本当によかったと思います。今回の講話が、少しでも生徒の人生に役立てばと思うばかりです。

※今回のアンケート等からも本校の言語環境の現状が垣間見えました。これまでに辛い思いや悲しい思いをしていた生徒が少なからずいたことを大いに反省し、全教職員一丸となって「ふわふわ言葉」が当たり前、「安心・安全な居場所」となる学校創りに尽力して参ります。今後とも保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

「いのちの講話」の感想から

今回の講話の感想は、どれも素晴らしいものばかりでした。全生徒分を紹介したいところですが、叶わず残念です。可能な限り次号以降に紹介します。

〇校長先生の話を聴いて命はめっちゃ大切だなと思いました。そして、心に残ったのは壺の話です。理由は、話の内容が心に響いたからです。そして、いじめや悪口、人が言われて嫌な言葉、行動は絶対にしたらだめだし、人が傷つくのでやっちゃだめだなと思いました。言われて嬉しい言葉、行動はどんどん言って、悪口のない学校・学級にしていきたいです。何かをもらったり、渡されたら「ありがとう」を積極的に言っていきたいです。そして、あいさつも心がけていきたいです。これからもふわふわ言葉を言っていきたいです。（１年生）

〇「いのちの講話」を聴いて、私はよくいのちのことについて考えようと思いました。人が嫌がること、人が嫌がる言葉を使わないように、人が嬉しくなるようなことをしようと思いました。そして、人の役に立つ人になりたいと思いました。人の役に立つことはいいことだから、もっと役に立てるように頑張りたいです。学級がいい雰囲気になるようにしたいです。（２年生）

〇アンケートの結果で、ふわふわ言葉、ちくちく言葉があって、学校がよりよくなるためにふわふわ言葉を学校中にあふれさせたいと思った。まずは、一人一人が考えながら行動することが大事だと思った。「いのちを輝かせる」とは、自分の良さを出したりするということ。これから、私は自分を大切にし、他の人も大切にしようと思った。（３年生）